

看護ケア推進たより 3号

こんにちは KKS21です

2013年7月

I. 顔のみえるケア連携を目指して

今後、日本は「少子化・高齢化・多死」の時代が到来します。急速な少子化はマンパワーの不足をきたし、高齢化により多死となり、さらに、国民の医療ニーズの増大と多様化が進むでしょう。その結果、「人々が住み慣れた地域で、最後までその人らしく生活する」ために、包括的及び継続的な支援が必要となってきます。そして、安心、安全の医療を提供するため、現在の医療提供体制をより効果的、効率的にする必要があり、チーム医療が推進されます。チーム医療においては、専門職種間の協働・役割分担の見直しが不可欠となり、看護職として質の高いケア提供のため高度な知識・判断が求められます。また、質の高いケアを提供するのは病院内の提供にとどまることなく、病院と施設そして地域間のケア連携が重要となってきます。ケア連携のためのネットワークを作り、共に学び、共により質の高いケアを提供すること、地域住民へのこのサービスが、「人々の住み慣れた地域で、最後までその人らしく生活する」ためのサービスの鍵を握るものと思います。



大阪厚生年金病院は平成 25 年 2 月 23 日に「チーム医療推進シンポジウム」を、3 月 23 日には第 1 回大阪厚生年金病院ケア連携の会を開催いたしました。地域におけるさらなるケア連携の基盤として、地域の医療・福祉に携わる方々との繋げる、広げる、高める場をつくり、「繋げようケアの力・広げようケアの輪・高めようケアの質」をテーマとして掲げました。また、9 月から福島区・此花区医師会のご協力を得て、当院看護師の在宅支援診療所・訪問看護ステーション研修を開始いたします。顔のみえるケア連携を目指していきたいと思っております。

II. 保健福祉事業講演会開催報告

療養福祉相談室では、毎年近隣の病院・診療所・居宅介護支援事業所等の医療・介護従事者の方を対象に保健福祉事業講演会を開催しています。第一回目の講演会は、10 月 27 日（土）梅原里実認知症看護認定看護師（湯河原厚生年金病院看護師長）に講師を依頼し、「認知症患者とその家族への支援について」というテーマで開催しました。事前に参加者の方々に「日々の支援の中で困っていること、うまくいったこと」



についてアンケートを行い、それらの内容をもとにした講演となりました。17 施設 22 名が参加し、終了後には「認知症患者の家族への関わり方やその重要性について理解が深められた」など多数の意見がありました。今後は認知症以外の分野の講演会も企画する予定です。

（療養福祉相談室 川邊裕子）

Ⅲ. チーム医療シンポジウムを開催いたしました！

【チーム医療普及推進事業について】

厚生労働省は安全で質の高い医療を実現するため、各医療関係職種の専門性を高め、それぞれの役割を拡大し、各職種が互いに連携して、医療を提供する「チーム医療」を推進しています。平成 23 年度には「チーム医療実証事業」として、全国から 68 施設 115 チームが選ばれその中に、当院の褥瘡対策チーム・フットケアチーム・外来がん化学療法チームの 3 チームが選ばれました。平成 24 年度はチーム医療を普及させていく「チーム医療普及推進事業」となり、さらに 31 施設（400 床以上の病院は 20 施設）に選ばれましたが、当院の 3 チームは継続して選ばれました。事業の一環としてチーム医療シンポジウムを開催し、3 チームに加え、当院の感染管理チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチームの 6 チームが下記の内容で実践報告を行いました。その後、地域の医療機関等でチーム医療に関心のある皆様に参加していただき、パネルディスカッションを行い、活発な意見交換を行うことができました。今後も院内だけでなく、地域全体がタックを組んでチーム医療を提供できるように検討を深めたいと思っています。

《チーム医療シンポジウム》

日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）13:30～17:00（受付 13:00～）

場所：ハービス OSAKA B2F 大ホール

《内容》

- I. 本事業の目的と大阪厚生年金病院におけるチーム医療の現状 病院長 山崎 芳郎
- II. チーム医療の実践報告 座長：診療局長 横山建二 看護部長 高橋弘枝

褥瘡対策チーム	皮膚科部長 池上隆太 皮膚排泄ケア認定看護師 清水加世子	チームアプローチによる褥瘡対策と地域連携
フットケアチーム	皮膚科部長 池上隆太 皮膚排泄ケア認定看護師 中西由香	フットケアチームによる下肢救済と足病予防に対する取り組み
外来がん化学療法チーム	乳腺内分泌外科部長 塚本文音 がん化学療法看護認定看護師 土岐昌代 薬剤師 渡邊正彦	内服抗がん剤使用中患者に対する取り組みと課題
感染管理チーム	感染管理認定看護師 柴谷涼子	MRSA による医療関連感染ゼロへの取り組み
栄養サポートチーム	内視鏡外科担当部長 赤丸祐介	チームの活動報告と課題
緩和ケアチーム	がん看護専門看護師 仲森由香	緩和ケアチームの現状報告

Ⅲ. パネルディスカッション



IV. 世界糖尿病デーイベント開催報告

昨年の11月14日、当院において「世界糖尿病デーイベント」を開催いたしました。世界糖尿病デーは、世界中で患者が増加している糖尿病予防の啓蒙を目的として、国連が11月14日と定めたものです。シンボルマークには国連や空を表す「ブルー」と団結を表す「輪」を使用したブルーサークルが採用されました。この日は、世界中で糖尿病の啓蒙活動が行なわれるのと同時に、各地の様々な建築物がシンボルカラーであるブルーにライトアップされます。通天閣や大阪城がブルーにライトアップされていたのをご覧になった方もいるのではないのでしょうか。（写真1）1階の薬剤部前会場では、糖尿病と治療薬、合併症についての様々なカラフルなポスター掲示と、様々な体験ができるよう各コーナーを設けました。



写真 1)大阪城ライトアップ

糖尿病カンパセーション・マップコーナー（栄養士）



「お酒は良いか、悪いかなど、糖尿病患者さんが抱きやすい疑問を、糖尿病カンパセーション・マップという教材を用いて、楽しく学ぶコーナーを盛り上げました。

フットケアコーナー（看護師）



18名の来場者の足を観察し、フットケアの相談にお答えさせていただきました。

相談コーナー（医師）



27名の糖尿病や生活習慣病に関する相談に答えさせていただき、必要な方には早期に受診するよう働きかけました。

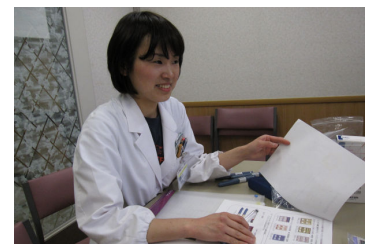
血糖測定コーナー（臨床検査技師）



血糖を測ったことのない方も、血糖が気になる方も、糖尿病について興味を持っていただきました。

お薬のコーナー（薬剤師）

糖尿病の治療薬に関する理解が深まるよう、薬のポスターを展示し、相談にも対応させていただきました。



すでに糖尿病と診断されている方も、糖尿病を予防したいとお考えの方や御家族や友人が糖尿病であるといった方、地域住民、当院を訪れた様々な方に糖尿病についての情報を提供できました。多くの方のご協力があり、大盛況に終えることができました。今後も当院の地域への貢献活動として、取り組んでいきたいと考えています。

（糖尿病看護認定看護師 前田結香）

V. 老人看護専門看護師の活動

4-3病棟 老人看護専門看護師 伊坪恵



2012年12月、専門看護師認定審査に合格し、老人看護専門看護師に認定されました。「専門看護師と認定看護師はどう違うの?」「老人看護専門看護師ってどんなことをする人なの?」という質問をよく受けるので、この2点について、お話をしながら、私の現在と今後の活動についてご理解をいただければと思います。

専門看護師の登録数は2012年12月現在1048名で、私が認定された老人看護専門看護師は全国で55名です。専門看護師とは「認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいい、次の役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を果たす」と規定されています。一方認定看護師とは「認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいい、次の役割(実践・指導・相談)を果たす」とあります。当院で活躍されている認定看護師の方々は研究や教育等でも活躍されておられますので、認定看護師、専門看護師という名前での仕事の違いに大差はないように思います。

私が老人看護を学ぶきっかけになったのは、認知症高齢者の対応の難しさを自分なりに克服したいという思いでした。母校の事例検討会に参加したのが縁で大学院に進学しました。修了後、臨床に戻ってきて、看護部倫理委員会でリストアップされる倫理的問題やジレンマを感じる事例をみると「私と同じように認知症の方への対応に悩んでいる人がたくさんいるんだ」と実感しました。認知症高齢者にとっては入院し、治療することそのものが脅威となるので、落ち着いて療養生活を送ることは困難です。少しでも穏やかに当院で過ごしてもらえよう、みなさまと一緒に考えていければと思っています。

もうひとつ力を入れたいことは「意思決定の支援」です。4-3病棟では自分の意思をうまく伝えられない方が多くいらっしゃいます。その中で治療方針や今後の療養先、胃ろうを造設するかどうかといった意思決定が求められます。家族が代理決定することが多いですが、本人の意思はどうかといった視点を必ず考えるようにしています。

日本専門看護師協議会で作成している老人看護専門看護師活動ポスターの図より引用しました。「高齢者の“意思”を尊重し、最期まで“人間らしく”過ごせることを支援すること」が私の役割であると考えていますので、何か聞いてみたいということがありましたら遠慮なく声をおかけください。よろしくお願いいたします。

